

充電に気を遣わない スマートなりモコン

セナのインターコムをハンドルから手を離すことなく操作できるのが「ハンドルバリモコン」。大きな洗濯ばさみのようなデザインが個性的なこのワイヤレスリモコンは、セナのインターコムとBluetoothで接続し、ジョイスティックとふたつのボタンを使って、インターコム会話、電話、音楽、FMラジオの操作が可能だ。

このリモコンの特徴をあげるとするならば、そのひとつは取付けの簡単さだ。ネジなどを一切使わず、2つのアームを開いてハンドルグリップに挟むだけ。それでも強力なスプリングの力で、走行中に落下するようなことはないから心配無用。またもうひとつが「Bluetooth 4.1」という超省電力の新規格を採用していることだ。Bluetooth 4.1対応腕時計や活動量計などにも使われているこの省電力Bluetooth規格によって、約2時間の充電で約3カ月も使えるのである。

ハンドルバリモコンは、簡単な取付けや充電回数の少なさなど、気を遣うことが少ないのがポイント。それだけに、今後も増えていくであろうハンドルバリモコン対応インターコムには、ぜひ組み合わせて使いたいアイテムだ。

Point_1

取付けはカンタン



左側のハンドルグリップに取付けるのが基本。作業は前後ふたつのアームを開いてグリップを挟むようにするだけで簡単だ。アームが挟むバネの力でハンドルグリップを保持するだけだが、これで落ちるようなことはまずない。親指でジョイスティックが操作しやすい向きにするのがポイント

Point_2

Bluetooth 4.1で接続可能!

ハンドルバリモコンはキットに同梱されている10Uはもちろん、インターコムカメラ10Cやセナのフラッグシップインターコム20Sでも使用可能。いずれのモデルもBluetooth 4.1のプロファイルに対応していて、ハンドルバリモコンとペアリングして使う。インターコム会話のほか電話の発着信やインターコムに接続したスマートフォンなどの音楽メディアなどの操作、さらにインターコム内蔵のFMラジオ機能などがハンドルの手で操作可能



電話の発着信

電話の発着信は後ろ側アームのリヤボタンで行う。登録した相手にかけるスピードダイヤルや、音声でかけられるボイスダイヤルも原則としてこのボタンで操作。セナのインターコムであればフォンボタンの操作となる



インターコムとの接続



インターコム同士のペアリングや会話の開始、停止は、すべてフロントボタンに集約され、親指で操作する。セナのジョグダイヤルタイプのインターコムであれば、ジョグダイヤルボタンをタップする操作と同じだ



音楽操作も可能

インターコムに接続したスマートフォンの音楽を楽しむような場合にも、ハンドルバリモコンで操作が可能だ。楽曲の再生、停止はジョイスティックの下押で、また、ジョイスティックを左右に倒すことで次の曲に送ったり、戻したりすることができる



FM FMラジオ操作

10U、10C、20SはFMラジオ機能を搭載しているため、このFMラジオも左手でリモコン操作が可能だ。FMラジオのオンオフやメモリー周波数の呼び出しはリヤボタン、マニュアルで放送局をシークする場合ジョイスティックで行うようになっている

Point_3

マイクロUSB端子

充電は後ろ側アームにあるマイクロUSB端子から。Androidスマートフォンなどに使う充電器が使える。充電時間はおよそ2時間だ

Point_4

リヤボタン

後ろ側アームにあるのがリヤボタン。グリップを握った手の人差し指で操作する。おもに電話の発着信やFMラジオの操作などが割り当てられていて、セナのインターコムであればフォンボタンにあたる。また、最初にセナのインターコムとペアリングする際にも使う

Point_5

フロントボタン

グリップを握った状態の親指で操作する、手前側アームにあるフロントボタン。ハンドルバリモコンのオンオフと、主にインターコム会話機能の操作やインターコムの設定メニューの操作などに使用する。セナのインターコムのジョグダイヤルの押下操作に相当する

Point_6

ジョイスティック

ジョグダイヤルがアイコンとなっているセナのインターコムだが、その回転操作に相当するのが親指で上下左右方向に操作するジョイスティック。スマートフォンに入った音楽を聞くための操作に使う。さらに、ボタンとしての機能も備えグローブでも使いやすい形状だ

Point_7

ボタン操作方法



ハンドルバリモコンの操作は、グリップを握った状態の左手の親指と人差し指を使う。ライダーから見てグリップ裏側にあたるリヤ

ボタンは直接見ながら操作することはできないが、突起しているのとちょうどいい位置にあることもあって操作しやすい

ハンドルバリモコン 標準装備の10Uラインナップ



SHOEI
NEOTEC用



SHOEI
GT-Air用



Arai
フルフェイス型
ヘルメット用

Spec

価格:4万2984円
ラインナップ:SHOEI GT-Air用
SHOEI NEOTEC用
Arai フルフェイス型ヘルメット用
通話時間:約10時間(環境により異なります)
充電時間:約3時間
Bluetoothプロファイル:HFP、A2DP、AVRCP
※製品仕様は変更になる場合もあります。

ハンドルバリモコンを標準装備するインターコム10U。操作をすべてハンドルバリモコンに任せることで、操作部を含むインターコムの本体にあたる部分を帽体内に分散配置した斬新なシステムが特徴だ。現在、SHOEIのGT-Air、NEOTECの2モデルと、アライの現行フルフェイスタイプに対応するモデルを用意